

あいとぴあ

相原まちづくり協議会情報誌

2011年11月1日 あいとぴあ 37号

発行 相原まちづくり協議会

責任者 理事長 土田 恭義

所在地 町田市相原町 597-56

電話 042 (774) 2982

印刷 木村印刷社 042-771-9985

まちづくりシンポジウム みんなで考える相原の防災 3.11.が相原に教えたこと

特集号

相原まちづくり協議会では、毎年「まちづくり講演会」を開催し、本年度で第14回目を迎えました。

今回は新たな試みとして、3月11日に発生した東日本大震災を契機に関心が高まった防災問題に照準をあて、大地震発生当日相原町で起こった様々なトラブルや防災上の問題点を調べた上で、町田市、消防署、警察署、そして地元の連合町内会、相原保善会、消防団さらには法政大学のご協

力のもと、9月25日に堺市民センターにて『まちづくりシンポジウム“みんなで考える相原の防災”』を開催いたしました。当日は160名を超える多くの町民の皆様にご参加いただき、熱気あふれるシンポジウムとなりました。改めましてお礼申し上げます。

今回の「あいとぴあ」は、まちづくりシンポジウム特集号として、その内容をより詳しくご紹介することにいたしました。

近い将来発生する確率が高まっているといわれる東海地震、東南海地震、南海地震さらには東京の直下型地震などに備え、読者の皆様のご参考になれば幸いです。

また今回の震災で亡くなられた方々のご冥福と被災された皆様のご1日でも早い復興を祈念いたします。



理事長 土田 恭義



熱心に討論に耳を傾ける相原のみなさん

行政の取り組み 町田市市民部防災安全課長 原 岩男氏

地震発生後の対応を検証した結果以下の問題点が明らかとなりました。災害時の情報伝達について行政防災無線の内容をメールで配信することが出来ます。町田市のホームページまたは、防災マップに印刷してあるQRコードから登録できます。そのほかにも確実に皆様に届くように検討中です。

また物資の備蓄については、灯油・プロパンなど燃料の確保 医薬品の調達。医薬品は現在市販の物しか購入できないため関係機関と協議し必要な備蓄を推進。帰宅困難者への支援については 公的機関を中心に一時待機場所の指定・開設時期に

ついて検討します。小学生の帰宅時期・方法の問題を学校、PTA、保護者の方々とよく協議することが必要です。また各家庭でも災害時の連絡など話し合ってください。自助、共助、公助が一つになる必要性があります。地域の皆様と行政がよく考えて一丸となってやっていきたいと思っております。



消防防災の課題と取り組み 町田消防署西町田出張所長 渡邊 洋士氏

東京消防庁管内では地震発生直後の14時46分から17時の間に114件の119番通報がありました。

都内では火災や天井崩落などが発生。町田市では大型スーパーの駐車場スロープの崩壊やエレベータの停止で閉じ込められた方の多数の119番通報で、消防隊がで尽くしている状況でした。

東京消防庁では6月6日まで東北被災地の震災支援をしました。しかし首都圏での大災害の際は緊急消防援助体制の中で日本全国各地から支援を受けることになります。首都圏直下型地震が発生した場合の帰宅困難者は450万人の予想です。

今回の震災では300万人のうち10万人が行政施設で一時避難をしました。東京都では帰宅困難者を出さないため、会社事業所での一時待機を含め備蓄条例案が検討されています。

地震は必ず来ると考え、事前の減災対策として重要な項目を以下にあげます。1 軽可搬式ポンプの導入 2 家具類の転倒落下防止や出火防止による 受傷防止 3 防災訓練への参加 4 住宅用火災報知機設置 5 不燃化 耐震化 特に普段の訓練が重要で、釜石市の『津波てんでんこ』を守っ



た地域では多くの方が助かりました。

東京都では子供から大人までの総合防災訓練を実施しています。

また実際の現場ではヘリコプターが活躍します。これからのまちづくりには是非避難場所の屋上などにヘリサイン

を書いてください。そこを目標に物資運搬や情報収集などに役立ちます。

また道路障害などで相原が孤立する恐れがあります。消防などが来る前に相原が次から次へと被災してしまいます。そうならないために自主防災力を考えてください。消防団は自主防災力のかなめです。各町会などの団体と連携しながら地域防災行動力を向上することが重要になります。

『津波てんでんこ』とは地震がきたら転々ばらばらとにかく逃げろという言い伝え

防災上の課題と取り組み 南大沢警察署警備課長 中島 義治氏

当日東京都内では、帰宅困難者 交通渋滞 広範囲停電 など大都市特有の課題が発生しています。これらの問題は大きなテロ災害時にも同じような事態が想定されますので警視庁では対策を考えています。交通渋滞は震災発生と同時にほぼすべての一般道で、都心から郊外へ向かう車両であふれ、午後8時くらいにピークを迎えました。警視庁管制センター始まって以来のことです。警視庁では信号調整 交通整理などの対策をとりましたが結果的に長時間にわたり渋滞は解消されませんでした。主要ターミナル駅周辺ではJRの運転再

開が翌日になったなどの影響で、多くの滞留者が発生し、その対応は官民あげて行われました。一方では解決しなければならない課題もあります。交通機関が遮断された場合は無理に帰宅しないよう行政機関も呼びかけています。

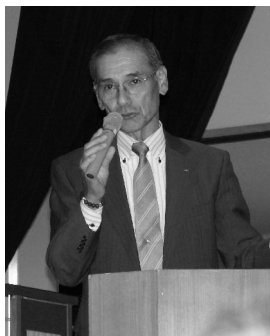
震災の教訓として情報の共有、関係機関対応状況、避難場所の開設状況、鉄道など交通機関の状況などを把握し的確に行動する。関係機関との危機を想定した訓練の実施も非常に重要です。

連絡体制の整備については東京都と連携して進めています。

地域での課題と取り組み 財団法人相原保善会(防災担当) 石井 悟氏

地域住民としては、まず各家庭での取組として3~4日分の備蓄しておくこと。またいざという時にラジオや懐中電灯など使えるように点検しておくことが大切です。災害が起こればまず自分を助けることが最初のハードルです。神戸の地震では家の中でケガをした人が一番多かったので、家の中の防災対策(家具の転倒防止など)をして下さいではなく、やらなくてはダメ。

次に相原は町田市内から一番遠い場所です。消防や支援物資など来るのは最後になってしまう可能性が大きい。そういった中で各町会の自主防災隊組織は町会役員が変わっても継続していく体制



を整えていくことが大切です。そのためには消防などの経験者やOBの方などを中心に自主防災隊組織を立ち上げれば、より継続しやすいのではないのでしょうか。

保善会として防災基金などの準備もしています。今後は皆様の意見を頂き、保善会でなければできない相原に必要な整備をしていきたいと考えています。

消防団の取り組み 町田市消防団第五分団分団長 飯島 保彦氏



首都圏直下の地震・東海地震等の発生が心配されている中で、消防署と共に地域にもっとも身近な防災機関である「消防団」の活動はますます重要になっています。消防団員それぞれが、普段は他に職業や学業を持ちながら、「我が街を災害から守る」という使命感の元、地域の防災リーダーとして幅広い活動を行っています。町田市消防団は 660 名で構成されています、そのうち地元第五分団は、102 名の団員で活動しておりますが、年々参加団員の確保が厳しい状況とな

っております。地域防災リーダーとなる多くの方々の入団をお待ちしています。消防団の主な活動 ポンプ操法訓練 応急救護訓練 防災訓練 無線運用訓練 震災消防訓練 文化財消防訓練 林野火災消防訓練 非常参集訓練 などを行っています。

消防団の取り組みとしては、3.11 の大震災を踏まえ、第五分団ではシークレットによる非常参集訓練を実施しました。(60%の団員が集まりました) 今後は、震災対応型の可搬ポンプを使用した訓練を強化していくと共に、各部においても震災を意識した機関運用訓練等独自の訓練を行い、有事の際に対応出来るよう知識や技術の習得をめざしてまいります。

都市計画上の課題と展望 法政大学デザイン工学部教授 高見 公雄氏

防災まちづくりの現在 3月の未曾有の大震災発生により防災まちづくりへの関心が高まっています。相原地区でも、大震災により停電が発生したこと、市内で被害者が発生したことなどから防災意識が高まっているものと考えられます。防災まちづくりは、現在、以下のような観点から議論されています。地震、津波被害への対応・交通マヒに関する対応・エネルギー供給に関する事項、原発問題などです。



相原まちづくりの状況 相原地区のまちづくりには未だ課題が山積し、解決・対応すべきことが多いと思います。私がお手伝いしている駅周辺街

づくりでは、道路整備にすることが中心的話題となっています。防災面を合わせ、以下のことが課題となっています。・災害時における道路機能の確保・境川の治水面と環境面・急傾斜地と環境・災害対策を含めた安全・安心のまちづくりです。

災害に強いまちづくりと都市計画 災害に強いまちづくりに関して都市計画の観点から大切なことは、平常時、非常時を通じ、以下のような事項があげられます。・非常時の避難・救援動線となる幹線道路の整備・踏切の解消・非常時にも機能する地区内の主要道路の確保・河川の整備(日常的な環境と増水時の備えの両方をにらんで)・災害時に多様な機能を担う地域コミュニティ拠点の充実・地域のコントロール・センターとなる行政機能の充実・電源など災害発生時の必要機能確保に関する自衛的対応です。

・・・来場者の質問を交えた討論会・・・

消防署所長 渡邊氏より補足説明

相原地区は町田街道から住宅地に入る 4 m 道路が多く震災などでは外壁やブロック塀の倒壊などで、ポンプ車が入って行けず、町田街道からの消防活動になり、ポンプ車とホースで消せる距離は 210 m までが限界です。その先は可搬式消防ポンプを活用す



る必要があります。合わせて水の確保が必要です。当面はすべての公園に外置型の防火水槽を町田市の理解を頂いて設置できれば、いざという時の生活用水としても兼用できます。

是非、可搬式消防ポンプを町会単位で導入して頂きたいと提案します。

相原保善会 石井氏より可搬式消防ポンプの導入状況などについて、丸山町会では消防団の詰所が中相原に移ってしまったなどの事情から町田市消防団の古い可搬式消防ポンプを譲り受けました。丸山町会の自主防災隊では消防経験者など 8 名で可搬ポンプ運用班を編成しました。一番重要なことは安全に継続して管理運用できる組織が必要ということです。 4 ページへつづく

町田市課長 原氏より防災マップ等の説明
町田市防災マップは去年に続き来年も作成します。相原地区では小学校と中学校が避難場所に指定されています。避難場所での医療活動については今後医師会と検討していきます。



避難所運営連絡会について、地域の自主防災組織と学校関係者と指定職員との間でマニュアルを作り避難所を運営して

もらいたい、ということで3年位前にごく一部の地域以外は終わっているのが現状です。町田市内70か所の避難場所の運営を地域の方にしてもらえようとお知らせしていきたいと考えています。

避難所での訓練について、町田市を5地区分けて実施していますが、約200ある自主防災組織の訓練は防災安全課として相談にのることはできませんが、地域の方が主体で行ってもらっています。

高見教授より大戸踏み切りについて、災害時閉めっぱなしするのはJRの基本的対応です。民鉄は状況に応じて手動で開けます。

南大沢警察署 中島氏より緊急車両などの場合について、震災当日は多くの警察・JRも対応したましたが結局、電車は通らなくても大戸踏切は開きませんでした。JRへの署長からの申し入れも不調

相原連合町内会会長 木下



本日皆様の話をお聞きして、相原の問題点と課題がだいぶ明確になってきました。連合町内会にもさっそく宿題がでております。

またパネリストの皆様とまちづくり協議会の方には心より御礼いたします。

この講演と討論を聞いての感想は、災害は必ず来ます。個人 地域 行政

町田市都市づくり部次長 沖

今日の中で再三 自助・共助・公助というお話が出てまいりました。皆さんが自分自身の安全を確保して、それからご家族、その後は近所の皆さんで力をあわせて行動する。近所の絆というものが、とても重要という事が改めて認識されました。

石井さんから「取り残されてしまうから自分たちでやらなければダメだぞ！」と話がありました。その危機感が相原の街づくりではないかと思いま

に終わりました。

地震時の一般車両はカギを付けたまま左側に止めて徒歩で避難するというルールについて聞き取り調査しましたが、知らない人が多くいました。今後検討する必要があります。

消防団団長 飯島氏より消防団の重要性について、大規模な災害や広範囲な水害などでは。相原を守る地元消防団はいっそう重要でOBの方など多くの方々に参加してほしい。

町田市課長 原氏より情報伝達について、防災無線の難聴地域の解消のためにスピーカーを96本増やす必要があり、また言っている内容が分からないなどの問題も検討しています。また雨風の中で戸を閉めればいっそう聞こえないので、今のところメール配信でお知らせするシステムのいっそうの普及を考えています。



可搬式消防ポンプ

薫範氏より「挨拶と感想」

が今すぐできることは直ぐにやる。中長期の問題はスケジュールを決め確実に実施する。人・物・金の問題で対策が進まないなどで、先送りやうやむやにせずソフト的な対策からでも必ず実行することが減災のためにも必要です。

阪神の震災では亡くなられた方の84%が、地震発生後14分間の出来事でした。近所の人助けが必要です。最近は町会会員にならない方がいますが、是非入会して町会活動に参加してください。

哲郎氏より「今後に向けて」

す。これからは、防災の事も頭に置きながら引き続き街づくりを検討していきたいと思っています。今回のシンポジウムが盛大に行われたのは、相原まちづくり協議会をはじめとして関係者の皆様方の努力の賜物だと思います。



3月11日当日、相原町に所在する諸施設で発生した事象、そしてその教訓として防災上改善したこと、さらには行政機関や消防・警察機関への要望事項について聞き取り調査した結果を下表にまとめました。ご協力ありがとうございました。

種別 (施設/機関)	発生した不具合等	自主的な改善点	公的機関への要望事項
公的施設	<p>停電による業務停止(照明、PC、水道)(S)</p> <p>帰宅困難者の受け入れ(S)</p> <p>停電時自家発電で照明確保(O)</p> <p>停電により電話不通で通信機能マ(O)</p> <p>学童の保護者引き取りで支障(P)</p>	<p>節電の励行</p> <p>ガラス飛散防止フィルム(S)</p> <p>防災備品の備蓄</p> <p>防災訓練の定期的実施(P)</p> <p>避難民の受け入れ(O)</p>	<p>緊急時「避難所」の指定(S)</p> <p>帰宅困難者への物資・設備の整備(S)</p> <p>防災無線放送の設置(O)</p> <p>災害時直通通信システムの構築(P)</p> <p>過度な節電の回避(特に夜間)</p>
金融機関	<p>停電による業務停止(照明、PC、ATM)</p> <p>交通機関不通で社員帰宅困難者発生</p> <p>交通機関不通で車での社員移送</p> <p>給油渋滞で車使用業務に支障</p>	<p>節電の励行(扇風機、グリーンカーテン)</p> <p>自家発電装置の整備</p> <p>防災備品の備蓄(食料、電池、照明、ラジオ)</p> <p>防災意識の高揚</p> <p>災害時使用可の通信機器への変更</p>	<p>停電時における信号機機能の維持</p> <p>防災無線放送の整備</p> <p>計画停電のグループ分けの明確化</p> <p>町田市ホームページ見直し(緊急災害用簡略化)</p>
交通機関	<p>横浜線大戸踏切閉鎖による渋滞</p> <p>バス停以外での降車不可で長時間車中</p> <p>ガソリン不足によるスタンド周辺給油渋滞</p>	<p>節電の励行</p>	<p>給油パニックによる渋滞対策</p> <p>大型路線バス用「退避型停留所」の推進</p>
商業施設	<p>食料品・日用品の品不足(買い占め傾向)</p> <p>停電時、自家発電で対応(レジスター)</p> <p>停電時電話使用も不可</p> <p>停電の長期化で食品が劣化</p> <p>水道、ガスのライフラインは確保</p> <p>乾電池品切れで支障</p> <p>地域防災組織で非常電源、採暖、食料提供</p>	<p>節電の励行(LED照明、看板照明)</p> <p>町田市携帯電話サービスの活用</p> <p>水・保存食料の備蓄の再確認</p> <p>防災備品(電池、ローソク)の点検・備蓄</p> <p>自家発電の必要性、オール電化の脆さ痛感</p> <p>非常照明(ランタン)の設置</p> <p>自主防災訓練の実施</p>	<p>踏切閉鎖に対する臨機応変な開放(機関連)</p> <p>防災無線放送の整備</p> <p>避難所の開設</p> <p>停電時、地元防犯防災メロ協力要請</p> <p>停電時、信号機機能の維持(別配線化)</p> <p>歩行・自転車通行を考慮した道路整備</p> <p>消防団員の入会促進・確保</p>
医療福祉施設	<p>停電による機能停止(EV、暖房、風呂)</p> <p>停電による診療停止</p> <p>災害用備品不足が明らかに</p> <p>職員家族との安否確認困難</p> <p>ガソリン不足による送迎機能マヒ</p> <p>利用者家族に送迎協力依頼</p> <p>利用者家族との連絡不通で行き違い</p> <p>階段利用による食材の運搬</p> <p>大戸踏切閉鎖で送迎時間が通常の3倍</p>	<p>自家発電機の購入</p> <p>節電の励行(扇風機購入、照明交換)</p> <p>防災意識の高揚</p> <p>避難用具の再点検・見直し</p> <p>計画停電時の休診の徹底</p> <p>防災訓練の徹底</p> <p>ソーラーライトによる緊急停電対策</p> <p>防災備品の棚卸しと一元管理</p>	<p>計画停電実施の事前予告の徹底</p> <p>停電時における信号機機能の維持(事故危険大、自家発電は可能か)</p> <p>警察官による交通整理の徹底</p> <p>市内道路状況案内(Ex.相模原市ヒバリ放送)の整備</p> <p>防災無線放送の整備(音質向上)</p> <p>要介護者送迎中の避難施設の確保</p> <p>緊急車両の円滑な通行を確保</p>
教育施設	<p>停電による給食の中止</p> <p>停電による通信機能・照明機能停止</p> <p>教職員泊り込みによる緊急時対応</p> <p>交通渋滞による園児送りに支障</p> <p>残留園児の不安除去に苦慮</p> <p>交通機関停止による帰宅困難者発生</p> <p>校舎の一部破損</p> <p>停電で夜間行動に支障(懐中電灯不備)</p> <p>住民有志による自主的交通整理</p>	<p>非常時の「引き取り」は保護者のみ</p> <p>節電の励行</p> <p>実効性のある避難訓練の徹底</p> <p>緊急時の組織体制の見直し</p> <p>自家発電機の設置</p> <p>電気に頼らない暖房器具の整備</p> <p>非常時送迎を中止し、自宅(園)待機</p> <p>園児引き渡し訓練の実施</p> <p>防災備品(電池、ローソク)の点検・備蓄</p>	<p>非常時の連絡手段の確保(非常用優先電話、等)</p> <p>生徒の安全を最優先に施設等再点検</p> <p>防災無線放送の整備(Ex.相模原市ヒバリ放送に頼っている)</p> <p>公園や学校に、災害用トイレ設置要望</p> <p>公園等運営は、地元町会・自治会に委託</p> <p>非常時における地域との連携体制整備</p>
寺社	<p>墓石、灯籠、白壁に一部被害</p>	<p>水・食料の備蓄</p> <p>ひび割れ発生による擁壁の補強工事</p>	<p>停電時における信号機機能の維持</p> <p>地下防火水槽の確認作業</p>
町会・自治会	<p>交通機関停止による帰宅困難者発生</p> <p>帰宅困難者への駅構内からの締め出し</p> <p>ガソリン不足と給油に伴う渋滞発生</p> <p>食料品・日用品の品不足</p> <p>帰宅困難者への町会防災隊の支援活動(町会会館の開放、物資提供、避難所確保)</p> <p>町内会の防災組織が機能しなかった。</p> <p>停電で介護用ベッド作動せず避難に支障</p> <p>地震による水道管の破裂</p> <p>停電による外灯消灯で防犯面で不安</p>	<p>防災意識の高揚</p> <p>防災マップの見直し(井戸、危険場所、消火栓等点検)</p> <p>水・保存食料・防災備品の再確認</p> <p>家具等の転倒防止対策の推進</p> <p>「安否確認ボード」の導入</p> <p>自家発電装置の設置、使用訓練の実施</p> <p>自主防災組織の再構築</p> <p>不要な買い占めの自粛</p> <p>町会役員・班長用ヘルメット整備</p>	<p>防災無線放送の整備(音質向上)</p> <p>大戸踏切立体化の早期実現</p> <p>帰宅困難者の公的施設での迅速な受け入れ</p> <p>停電時、相原十字路の交通整理</p> <p>踏切閉鎖に対する臨機応変な開放(非常時における緊急車両通行の確保)</p> <p>独り住い高齢者の安否確認システムの導入</p> <p>公的施設での自家発電設備の設置</p> <p>防火水槽の点検</p> <p>避難拠点までの避難誘導看板の設置</p>

特別講演 「福島原発冷却放水活動」

ミッション成功までの道程

福島第一原発 3号機の冷却放水に挑んだハイパーレスキュー隊員の活動を指揮した元ハイパーレスキュー隊総括隊長 高山幸夫氏の特別講演がありました。

時系列に震災発生から冷却放水にいたる過程の説明と放射能という目に見えない敵と戦った恐怖心、その恐怖心とレスキュー隊員としての使命感。人命が掛かった時点での指揮官の判断の難しさなど 迫力ある映像と音響を交えての講演でした。

特に感銘を受けたのは、放水の準備作業の最中

に「放射線濃度が100ミリシーベルトを超えています」というスピーカーの声に混じって「ピー・ピー」という不気味な警告音が鳴り響く中での活動中の映像でした。

恐らく、出発前に総監訓辞にあった「日本の国運が掛かっている。多くの人命がかかっている」という言葉が隊員全員の頭の中を駆け巡っていたのではないかと思います。

本当にご苦労様でした。ありがとうございました。



テレビ会見に臨む高山総括隊長（右端）



画像を交えながらの講演

冷却放水にいたるまで

3/11	14:46	地震発生
3/11	15:03	津波第一波到来
3/12	15:36	福島第一原発1号機爆発
3/14	11:01	福島第一原発3号機水素爆発
3/17	22:40	集結せよの指令
3/18	02:05	出勤命令が出る
3/18	07:35	いわき市に到着
3/18	14:06	Jビレッジに到着
3/18	19:03	第一回目の放水作業に挑むがホースが短くて断念し引き返す
3/18	23:51	100ミリシーベルトを超える現場での放水準備作業
3/19	00:12	放水開始



Q.大変だったこと？
今回は目に見えない敵と戦う恐怖心もあった

高山幸夫氏の経歴

昭和50年（1975）東京消防庁入庁
昭和52年（1977）レスキュー隊入隊
平成8年（1996）ハイパーレスキュー隊隊長
平成18年（2006）ハイパーレスキュー隊部隊長
平成20年（2008）ハイパーレスキュー隊総括隊長に就任
平成23年（2011）町田消防署 警防課長就任

活動を通じて感じたこと

- ・恐怖心と使命感との葛藤
- ・目の前の傷者を助けられない救助
- ・指揮官としてできることと出来ないことを判断
- ・現場を見ずして指揮はできない（答えはすべて現場にある）
- ・オレンジ服と仲間のお陰

高山幸夫